

田川市の独居男性
宅の遺品処理をす
るスタッフ

天国へのお引っ越しをお任せ



業者は二〇〇二年に刈谷市で創業した「キーパーズ」。電話やインターネットで申し込みを受け事前に要望などを聞いて見積もりを示し、故人宅へ。そこでは指定された遺品探しや形見の仕分け、こんばんの撤去▽住居の清掃などを行なう。数人のスタッフで行う。家電品などもあるため、遺品はすべて業者が持ちます。

一方で、不要とされた品は供養後、処分したり、リサイクル品として業者自ら買い取る。費用は部屋や遺品の数、遺族の要望などにより異なるが、およそ十万~三十万円。年商四億五千万円の同社。大阪で引っ越し業を営んでいた現社長吉田太一さん（四二）が、客から遺品処理の要望が多いことに目を付けて開業した。

遠方に独りで暮らす親兄弟などが亡くなつた際、遺族に代わり故人の日用品や部屋の片付けなどを引き受けける「遺品処理サービス」が注目されている。核家族化などもたらした独居老人世帯の増加を背景にした新ビジネス。その草分け業者（本社・愛知県刈谷市）は福岡市に進出し、九州でも需要を伸ばしている。

遺品処理代行大忙し

九州進出1年 独居老人増加を反映

その後、東京、大阪支店に続いて〇四年十一月、福岡市東区に福岡支店を開設。同支店のエリアは九州・山口地域で、月に十五件ほどの注文を受けている。

福岡県内の独居老人世帯（〇五年）は約十八万四千世帯で、十五年前の約二・四倍に増えた。「東京は月百件の受注があり、九州でも伸びている。独居老人は増える一方で、今後もビジネスは広がる」と中村明・キーパーズ本社営業課長（三八）。

福岡支店が請け負つた福岡県田川市の独居男性の遺品処理。依頼人は男性の妹（七〇）だった。故人宅ではユニホーム姿の五人の作業員があらかじめ指示された形見と不要な日用品を分別。不要品を段ボール箱に詰め込み、トラックに運び込んだ。

依頼した妹が顔を出したのは、作業の始めと終わり。「兄の遺品は何があるのか分からない。知り合いや親せきに片付けの手伝いを頼まずに済んだので、助かりました」と話していた。キーパーズ福岡支店＝〇九二（611）6612。